

V 日高振興局

1. 印南町農業士会が宝牧場で研修会を実施

7月22日、印南町農業士会（会長：片山真吾氏）11名は、特徴ある6次産業化の取組について学ぶため、滋賀県高島市の（有）宝牧場（代表取締役：田原哲也氏）において研修会を実施した。

まず、田原代表の案内で、搾乳パーラーを見学した。円形のターンテーブルを回転させながら、乳牛が順番に搾乳スペースに入っていく、一回転する間に搾乳が完了するというシステムで、乳牛にとっても快適であり、効率的かつ安全に搾乳できるとのことであった。

続いて、出産間近から出産後にかけての母牛と生後間もない子牛がいる牛舎を見学した。病気などのリスクもあるものの、責任を持って肉牛を低コストで生産できることから、繁殖から肥育、精肉販売までを自社で一貫して行っている。

さらに、肉牛の牛舎を見学した後、生乳の加工施設「しぼりたて工房」に移動し、田原代表から、宝牧場のはじまりから6次産業化への取組について話を聞いた。創業者である父の田原義裕氏の思い切った経営とそれに応える形で現代表が次々と新しい部門に取り組み、苦労や失敗を重ねながらも成功していく話は、たいへん興味深いもので、会員からも驚きの声や質問が相次いだ。

その後、宝牧場内にあるレストラン「宝亭」で近江牛ランチをいただいた。田原代表から貴重な体験談を聞いた後の食事は、より感慨深いものとなった。

今回の研修内容は、会員らの経営分野とは異なるものの、6次産業化や田原代表の考え方に触れ、充実したものとなった。



搾乳パーラー



肥育中の肉牛



田原代表の説明



焼肉レストラン「宝亭」

2. 第1回うめの県内有機農業実践者研修会を初めて開催

7月27日、農業水産振興課は、うめ栽培における新技術や病虫害防除の知識習得やうめの有機農場園地見学、農業者相互の交流によるうめの有機栽培技術の向上を目指し、果樹試験場うめ研究所、(有)紀州高田果園(代表取締役:高田智史氏)において、「第1回うめの県内有機農業実践者研修会」を開催した。県内の有機農業実践者に幅広く呼び掛け、かつらぎ町有機農業実践グループから14名、田辺印の会から12名、紀州高田果園のグループから12名、個人農家1名の計39名の有機農業実践者が参加した。

この研修会は、有機農業には栽培マニュアル等が少なく、有機農業技術向上のための勉強機会や他地域の実践者との交流機会が欲しいとの声があったことから開催に至った。研修会は講演会、うめ研究所見学、意見交換会、(有)紀州高田果園の現地見学の4部構成で実施した。

まず、うめ研究所の菱池主任研究員が「うめ栽培における病虫害防除」、綱木研究員が「カットバック・摘心処理技術などの新技術」の講演を行った。続いて、高田氏から自社の取り組みについての講演があった。高田氏は「有機農業実践者同士の情報共有や交流はとても大事だと考えています。ぜひ、今後もこのような集まりが開催されることを期待しています。」と語った。



講演会

うめ研究所の園地見学では、カットバック・摘心処理技術の説明や品種紹介などが行われた。



うめ研究所園地見学

参加者同士の意見交換会では、有機農業実践グループの代表からそれぞれの取り組みについて説明があり、質疑応答を行った。かつらぎ町有機農業実践グループでは月に1回2,3時間ほどの定例会を開きグループ員同士の情報共有を行っているという。田辺印の会は、生產品の販売の難しさなどその他グループとの共通の悩みを語った。(有)紀州高田果園グループからは土づくりの重要性について語られた。



(有)紀州高田果園園地見学

最後に、(有)紀州高田果園へ移動し、「南高梅発祥の地」の石碑と南高梅原木を見学した。

有機農業の取組を広げていくためには、実践者間の交流が必要であり、国や県などと連携した産地づくりが求められている。今後も引き続いて研修会を実施していきたい。